

TPR REPORT 2023



TPR統合報告書 2023

技術、情熱、信頼を基盤に、 明日の世界を創る

パワートレイン、多角化商品や先端素材に関する優れた技術、社員一人一人の情熱、そして様々な分野の多くのお客様と築き上げた信頼関係。こうした基盤を活かし、私たちTPRグループは、世界6極に展開されるグループ力を結集し、さらなる技術革新、価値ある商品の提供、新しい分野の開拓を通じて、明日の世界を創ります。

T Technology

技術力

TPRは、エンジンの技術革新や新燃料対応等に高い技術力で応えるとともに、多角的な研究開発や新事業開拓に取り組んでいます。また、培ってきた技術をさらに深化させ、複合し、様々なニーズへの対応ならびに市場のシーズ発掘に注力し、環境性能に優れた商品を提供していきます。

P Passion

情熱

TPRは一人一人の社員が、生産、技術、開発、営業、管理の諸活動に、生き生きと、熱い思いを持って取り組み、様々なことに積極的にチャレンジしています。世界各地のお客様との間に築いてきたグローバルなネットワークも、TPRの情熱の賜物です。

R Reliance

信頼

TPRの「ものづくり」の姿勢、品質に対する世界各国のお客様の信頼は、長い時間をかけ実績を重ねた末に得られたかけがえのない財産です。その信頼を礎に、世界市場を勝ち抜く柔軟で俊敏な企業グループとして、お客様の期待に応え、さらに厚い信頼を獲得できるよう、努力していきます。

目次

- 01 TPRの想い
- 02 企業理念
- 03 トップメッセージ
- 07 成長の軌跡
- 09 TPR at a glance
- 10 TPRの3つの強み
- 15 価値創造プロセス
- 17 事業戦略
 - パワートレイン事業
 - 多角化事業・新事業
 - ファルテック
- 23 サステナビリティ
 - TPRのサステナブル経営
- 25 環境への取り組み
- 27 社会への取り組み
- 29 コーポレート・ガバナンス
- 30 コンプライアンス
 - リスクマネジメント
- 31 インフォメーション
 - 財務ハイライト
- 32 会社・株式情報

クリーンで、クオリティの高い 地球社会の実現へ

企業理念

わたしたちは、
動力機構の高度化を原点として、無限の可能性に挑戦し、
優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、
クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献します。

経営姿勢

期待を創り、期待に応え、お客様の厚い信頼を獲得します。
技術を広げ、技術を深め、世界をリードする商品を提供します。
ひとをつくり、ひとに学び、社員とともに生きがいのある職場を実現します。

行動指針

わたしたちは、とことんやり抜きます。
とことん挑戦します。とことん探求します。
とことん創造します。とことん話し合います。

編集方針

この統合報告書は、株主・投資家、取引先、地域社会、社員など、様々なステークホルダーの皆様へ、経営方針、事業戦略、財務情報に加え、持続可能な社会の実現に向けたCSR活動を含むTPRの様々な活動を、わかりやすくお伝えし、企業価値、成長性ならびに事業継続性をご理解いただくためのコミュニケーションツールと位置付けています。

報告対象期間

2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)を基本としています(一部対象期間外の活動も紹介しています)。

報告対象範囲

TPR株式会社および連結子会社(一部はTPR、日本国内のグループ会社を対象としています)。

免責事項

本レポートに記載されている当社の現在の計画、戦略に関する情報は、現時点で把握可能な情報に基づき、当社が判断したものになります。従いまして、実際の結果は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、見通しと大きく異なる可能性があります。



代表取締役 会長兼CEO
末廣 博

代表取締役 社長兼COO
矢野 和美

「両輪経営」で成長機会を獲得し サステナブルな社会に貢献します。

創業100年を超える2040年に向けてパワートレイン事業と多角化事業・新事業の「両輪経営」を推進し、持続的成長を目指すTPRグループ。創業時からの社会価値提供の意思を受け継ぎつつ、技術力と生産供給体制の強みを活かし、新たな飛躍を遂げていきます。

TPRが提供してきた社会価値と 創業以来受け継いできたもの

私たちTPRが掲げる企業理念と経営姿勢、行動指針は、創業50周年を機に社内で議論を重ねて1991年に制定したのですが、その30年以上前の言葉には、ESG/SDGs経営の流れを先取りしたとも言えるような環境・社会テーマが含まれています。

創業者の田中源太郎は、当初航空機用エンジンオイルの販売を手掛けていましたが、エンジンの性能に関わるピストンリングやシリンダライナの重要性に着目し、今日のTPRにつながる事業を立ち上げ、製造・販売を展開してきました。エンジンの熱効率向上や軽量化をもたらすこれらの製品づくりを通じて、環境保全・省エネルギーに寄与するという自覚を持ち続けてきたことから、企業理念の「グリーンで、クオリティの高い地球社会の実現」という言葉が生まれたものと捉えています。その後も現在に至るまで、TPRが環境・社会への貢献をミッションとして意識しつつ、事業を継続してきたことは言うまでもありません。

また経営姿勢の言葉は、「ひと」による価値提供でステークホルダーの期待に応え、信頼関係を築き、繁栄を分かち合っていく考え方を示しています。

自動車産業のグローバル成長を支え、ともに発展を遂げてきたTPRは、重要部品に求められる製品の安全性や耐久性はもちろん、高品質および安定供給の維持に強いこだわりと責任感を持って、ものづくりに携わってきました。さらに自動車メーカーのパートナー企業として、エンジン開発に初期段階から関与し、求められるニーズに応えるべく、技術力と提案力を磨き上げてきました。TPRが長年にわたり成長し続けることができた理由は、そこにあると自負しています。

今、自動車産業はEV化へのシフトを軸とする大変革期を迎え、すでに様々な転換が始まっています。ピストンリングやシリンダライナなど、内燃機関のエンジン部品を製造するパワートレイン事業は、TPRのコア事業として高い市場シェアを獲得してきましたが、将来的にはEVへの移行に伴い、市場そのものが逡減していくと見られています。

その中で私たちは、非エンジン領域である多角化事

業・新事業への展開において、パワートレイン事業で培ってきた技術開発や量産・供給体制の強みを活かし、企業理念の言葉である「動力機構の高度化」を通じて、社会価値を提供していきたいと考えています。

そして創業100年を超える2040年に向けて、パワートレイン事業と多角化事業・新事業の「両輪経営」による成長戦略を推進し、飛躍を遂げてまいります。長らくエンジン領域での事業展開で成長してきた私たちが、引き続き世の中に必要な企業として存続するためには、社内の意識変革を促し、迅速な取り組みで新たな領域に挑戦することが求められるでしょう。

「両輪経営」が目指す持続的成長、 その実現に向けた展望と課題

現在EVへの移行が進みつつあるとはいえ、足元ではエンジン領域における活況が続いており、史上最高の生産量となっています。この高需要をしっかりと取り込み、収益基盤としてのパワートレイン事業を維持しつつ、そこで確保した利益を多角化事業・新事業の成長原資とし、中長期の拡大を目指すのが「両輪経営」の基本的な考え方です。

私たちは、パワートレイン事業において日系自動車メーカーを主とする強固な顧客基盤を確保し、品質と技術力、安定した量産・供給体制により、サプライヤーとして高い信頼を築き上げてきました。世界6極(日本、中国、アジア、北米、南米、欧州)に合弁展開を含む生産・販売ネットワークを拡げ、特にシリンダライナは、グローバルシェアで首位を保持しています。

一方、非エンジン領域の事業展開としては、2012年に自動車の外装樹脂部品を手掛ける株式会社ファルテックへの資本参加・子会社化を実施し、また近年は、EV対応やゴム・樹脂、表面処理、カーボンナノチューブをはじめとする素材開発など、多角化事業・新事業の案件構築を進めています。

今後パワートレイン事業の部品需要は、グローバルで2025年くらいまで伸び続け、増収・増益基調の維持が見込まれますが、中長期的には欧州・米国・中国で政策的にEVシフトを促進する動きが加速し、これに前後して需要が逡減すると予測しています。こうした前



提のもとTPRIは、「両輪経営」を推進し、創業100周年に向けて売上高ならびに利益の増強に取り組み、そのうち多角化事業・新事業については「売上高500億円」「営業利益50億円」を目指していきます。

パワートレイン事業は、2040年に向けて「環境対応製品の開発と利益の最大化」をテーマに掲げ、エンジン熱効率50%以上に貢献する製品や、CO₂削減に資する新燃料に対応した次世代エンジン向け製品の開発を進めていきます。同時に、世界6極のネットワーク拠点を活用し、地域分散によるリスク対応とさらなる低コスト化が可能な「最適生産・供給体制」を構築するとともに、国内マザー工場の生産効率向上・合理化を図り、利益の拡大につなげます。

そして多角化事業・新事業は、これまでパワートレイン事業で培ってきた、動きをスムーズにさせる摺動やシール(密封)、熱コントロール、表面処理などに関する技術と、多品種大量生産の品質管理ノウハウを強みとして活かし、早期事業化および事業拡大を実現していきます。特に金属部品のゴム・樹脂化や、ナノ素材(カーボンナノチューブ、ナノポーラス)による熱電発電・燃料電池対応は、重点投資対象です。EVへの部品供給は、EVシフトが先行する中国市場で現地合弁パートナーと設立した新技術センター(TANE)を中心に、技術・製品の開発を進めていきます。

TPRIにとってEV市場の中長期的な拡大が、極めて大きな成長機会であることは間違いありません。しかし私たちは、これまでピストンリングやシリンダライナを主とするエンジン領域のものづくりで深掘りを極め、提供価

値を高めてきた会社ですので、今後それを非エンジンの多様な領域に拡げていく、言わば「縦から横への展開」に向けた転換が必要となります。多角化事業・新事業に対応できる人材の獲得・育成はもちろん、新たな事業にチャレンジしていく企業文化を醸成し、既存分野から成長分野への人材シフトなど、スムーズな経営資源配分を可能にすることが今後の課題です。

中期経営計画の進捗状況と 最終年度におけるポイント

私たちは現在、2023年度を最終年度とする4ヵ年中期経営計画(23中計)を推進中です。本計画は、2040年へのマイルストーンとして、2023年度連結業績における「売上高1,800億円」「経常利益210億円(経常利益率11.6%)」「ROE 10%以上」「自己資本比率45%以上」の達成および安定的株主還元を財務目標に掲げています。

定性面では、「パワトレ商品のダントツNo.1を追求」「新規事業の積極展開をスピードアップ」「安全・環境・防災の徹底」「働き甲斐のある職場づくり」を目指す姿の4本柱に据えています。「両輪経営」の成長戦略を通じて、いずれも着実に進展してきました。

しかし財務目標は、計画策定時に想定していなかった新型コロナウイルス感染症の拡大や、ウクライナ危機に端を発する原材料・エネルギー価格の高騰などを受け、利益面の進捗に乖離が生じています。これをカバーすべく、2023年度はさらなる生産合理化に努めてまいります。

計画最終年度におけるポイントを述べますと、パワートレイン事業では、コスト上昇への対応施策と並行して、将来に向けたグローバル事業展開の見直しを行います。すなわち、今後の発展が見込める注力すべき地域とそれ以外の地域を見極め、次の成長を目指すための体制を整えていきたいと考えています。

多角化事業・新事業では、これまで案件構築を進めてきた新規事業・新製品テーマについて、それぞれの実現可能性や成長性を検証・判断し、取り組みを進めていきます。多角化事業・新事業への投資は、長期的なリターンを期待すべきですので、足元の進捗状況

だけで評価することは難しいですが、先進技術に関する動向や市場のニーズなどに関する詳細な情報を収集し、検証・判断のものさしにしていく方針です。そうした中、EV市場展開の要となる中国では、新技術センター(TANE)にて開発への参画ならびに量産受注を複数獲得しており、またカーボンナノチューブ事業においても、アプリケーション提案を含む製品化に進展が見られ、2023年度内にこれらが具体的に動き出す予定です。

なお2023年度は、100周年に向けた新たなマイルストーンとなる次期中期経営計画を策定していきます。現行計画においても、策定時に想定していなかったコロナ禍やウクライナ危機の影響を大きく受けるなど、ますます先行き不透明で不確実性が高い時代となる中、中期的な展望を描いて確度の高い計画を立案することが困難となっています。しかし将来のあるべき姿に向けて成長戦略を整理し、特に「両輪経営」に必要な経営資源配分の方向性を共有する上で、中期的な時間軸での計画策定は有効であり、環境変化を踏まえ、見直しを図りながら遂行していく意義があると思います。

すべてのステークホルダーから 認めていただく存在価値

企業は、多くのステークホルダーに支えられて存続し、事業が生み出す成果をステークホルダーと分かち合いながら、ともに発展していく存在です。そうした観点から、私たちTPRIがESG/SDGs経営によるサステナビリティへの貢献を企業活動の根幹に置くことは、当然であると考えています。冒頭に述べました通り、企業理念をはじめとするTPRIのフィロソフィーには、ESG/SDGs経営につながる環境・社会テーマが含まれ、サステナビリティについての考えを示すものとなっています。私たちは、時代の変化に合わせてESG/SDGs経営を推進し、高い透明性を持ってステークホルダーに発信していく必要があると認識しています。

TPRIは、エンジンの熱効率向上や軽量化につながる製品づくり、EVシフトへの対応など、事業活動そのものを通じて環境保全に寄与していますが、自社においても「2045年カーボンニュートラル達成」の目標を掲げ、太陽光発電の導入や再生可能エネルギーの購入、生

産工程の電力消費量削減などを実施し、達成を目指しています。2022年5月には、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同を表明し、これに基づく情報開示に取り組んでいます。

投資家・株主の皆様には、安定的かつ持続的な株主還元を行い、配当や機動的な自社株買いなどを合算した株主総還元率30%を維持するとともに、中長期的な株主価値の向上に取り組んでまいります。

また「両輪経営」への理解やサステナビリティへの意識を社内に浸透させながら、従業員エンゲージメントの向上と人材の活躍を促すべく、タウンホールミーティング(従業員と経営陣の対話集会)を実施しています。経営陣が現場で働く従業員から生の声を聞き、従業員と会社が考え方を共有する場として有効に機能しており、並行して行う従業員エンゲージメントの調査結果も改善傾向を示しています。



こうした社内コミュニケーション強化のほか、人的資本に関わる取り組みとして、教育制度の充実化や多角化事業・新事業における開発アイデアの公募など実施し、会社全体の活性化を図っています。「ひと」によるものづくりを通じて従業員の幸せを実現し、そこから生まれる価値を社会に提供することで、持続的成長を遂げていく。それがTPRIの人的資本経営だと考えます。

私たちは、すべてのステークホルダーの皆様から存在価値を認めていただけるよう引き続き努力してまいります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

成長の軌跡

優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献する企業を目指してきました。

TPRグループは、1939年の創業以来、「動力機構の高度化を原点として、無限の可能性に挑戦し、優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献する」という企業理念のもと、世界6極にまたがるグローバルな生産・販売ネットワークを構築し、持続的な成長を実現してきました。

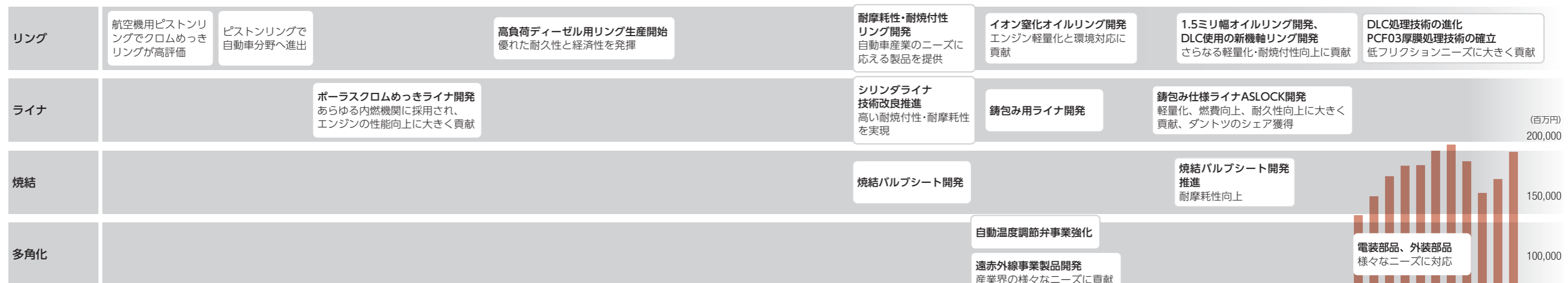
ピストンリング、シリンダライナ、焼結製品等パワートレイン製品では、一步先を行く技術開発と価値ある独自製品の低コストでの提供により、エンジンの軽量化、低燃費化、耐焼付性向上など「地球環境に優しいエンジンづくり」に貢献してきました。また、事業の多角化を進め、自動車外装部品や樹脂、ゴム製品などの提供により、全世界のお客様に高い評価をいただいています。

自動車業界が大変革の時代を迎え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済・社会の変容、地球規模の環境・エネルギー問題の顕在化など、企業を取り巻く環境は大きく変化し、また企業に対する要求はますます多様化しています。

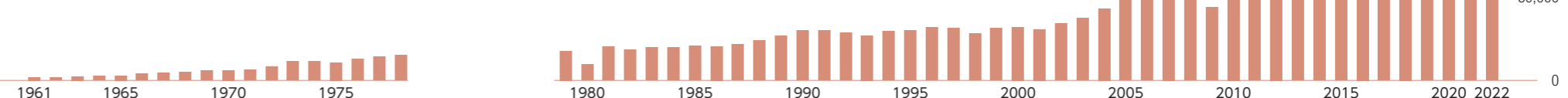
このような厳しい経営環境を乗り越えるため、当社はコア技術を応用した新分野の開拓ならびに新規事業の創出を加速させ、優れた技術力、グローバルに展開するものづくりの力、お客様との幅広いネットワークといった強みを活かし、全社一丸となって、継続的な成長とサステナブルな社会の実現に貢献していきます。



技術開発の歴史と提供してきた価値



売上高の推移



TPR at a glance

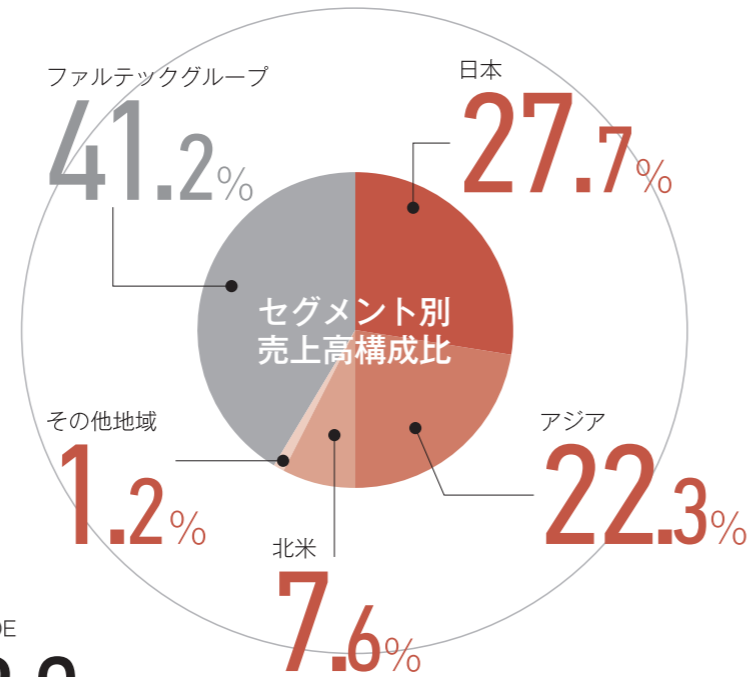
連結業績 (2022年度)

売上高
1,786 億円

経常利益
102 億円

親会社株主に帰属する当期純利益
38 億円

純資産 1,659 億円
自己資本比率 **50.5%**
ROE **2.9%**



事業内容



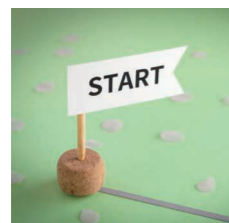
パワートレイン事業

自動車をはじめとした輸送機械、産業機械、発電用機械で使われるエンジンやトランスミッションを支える部品(ピストンリング、シリンダライナ、焼結製品、シールリング)を提供、また高い開発・評価技術力で、様々な提案を行っています。



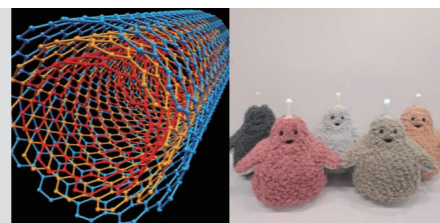
多角化事業

材料配合技術や、金型設計・製品加工の技術を中心に、多様な製品を空圧機械・自動車・住宅等のお客様に提供しています。



新事業

未来洞察から立案したアイデアの新事業開発および先端新素材のアプリケーション化に取り組むなど、コア技術を活用した新分野の開拓ならびに新規事業の創出に取り組んでいます。



ファルテックグループ製品

樹脂成形や表面処理等の技術力を活かし、高い品質感と機能美を追求した自動車外装部品、自動車純正用品および自動車関連機器をグローバルに提供しています。



TPRの3つの強み

TPRグループは、1939年の創業以来、無限の可能性に挑戦し、価値ある商品の世界への提供に取り組み、コア技術力、お客様との幅広いネットワーク、グローバルに展開するものづくりの力といった強みを培ってきました。これらの強みを活かし、そしてさらに進化させながら、高付加価値な製品をグローバルに提供していきます。

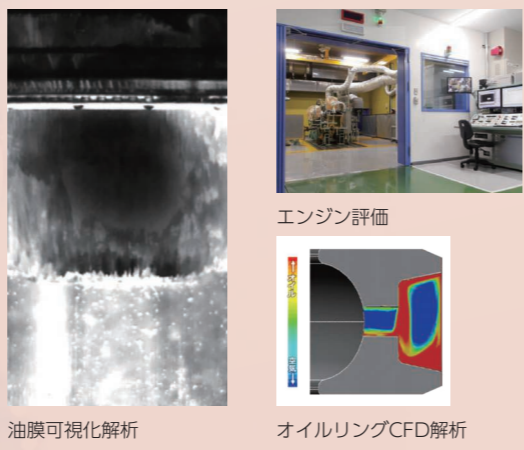


強み
1
コア技術

内燃機関で培った高い技術力を武器に、お客様のニーズに応える提案を通じて、環境に優しいパワートレイン高度化のみならず、多角化事業・新事業分野製品の創出にも貢献しています。

動力機構
評価・計測・解析技術

長年にわたる内燃機関、自動車技術の発展とともに当社におけるエンジン評価、計測・解析技術も進化、これまでの評価結果をもとに、DX技術として解析シミュレーション技術への移行を推進し、今後の地球規模での環境保護・CO₂削減への取り組みに貢献しています。



各種材料摺動シール技術

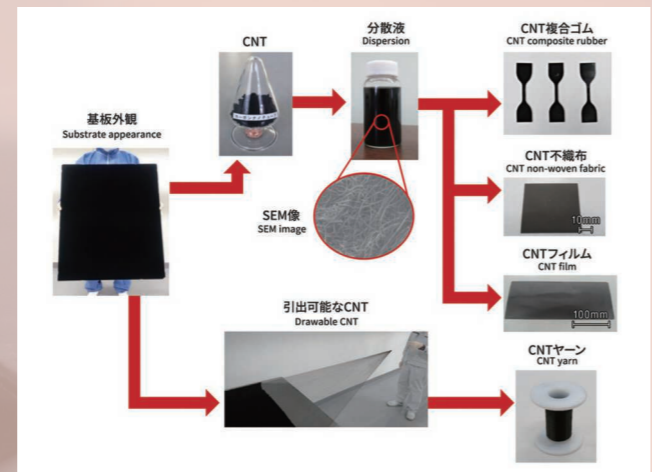


エンジンの機能部品である「ピストンリング」を中心に、内燃機関での摺動環境に対応した「各種表面処理技術」を保有、近年では乾式コーティングである“PVD方式”による「CrN」「DLC」の適用により、高耐久性、低燃費化を実現しています。相手材となるシリンダライナ製造技術では、『遠心鑄造技術』による『外周凹凸形状＝アズロック®ライナ』は、世界各国のお客様に使用していただいています。また、エンジニアリングプラスチック材による高温油中摺動環境下での「シールリング」やゴム材による空圧シール用Oリングなど、高分子材料部品の提供により、内燃機関以外へのシール部品も提供しています。



ナノ構造材料技術

TPR製カーボンナノチューブは、長さが長く、少層に制御されたカーボンナノチューブです。各種用途展開技術も合わせて開発しており、各種製品への適用に対して、生体電極、発電素子、電磁波シールドなどの開発を進めています。



強み
2
幅広い顧客層

優れた技術力と価値ある独自製品の低コストでの提供、グローバルに展開するものづくりの力を活かし、様々な製品で世界のお客様から高い評価をいただいています。



自動車メーカー
新興EVメーカー
二輪車メーカー
建機メーカー
農機メーカー
船外機メーカー
汎用機器メーカー

- 多様な材料、表面処理技術による、熱効率向上、高耐久性、低燃費への貢献
- CAE (Computer Aided Engineering) を活用した、開発効率化(開発時間・テスト時の莫大な燃料消費削減)
- 低コストで高品質の製品の提供
- 社会・環境に配慮した製品の提供、排ガスのクリーン化
- 造形・加飾技術により、意匠性の実現に貢献

設備メーカー
自動車メーカー
新興EVメーカー

- 高耐久性による、安心感
- 世界の現場で産業を下支えする製品を提供

住設メーカー

- 伝統美を伝える、意匠性とデザイン
- 断熱効果による、快適性と機能性
- 人々の暮らしに様々な場面で貢献(価値を提供)

強み

3

グローバルネットワーク

1990年代から海外展開を開始し、世界6極にまたがるグローバルな生産・販売ネットワークを構築、持続的な成長を実現しています。

欧州
3社
(従業員373名)

イギリス

ドイツ

トルコ



中国
8社
(従業員1,717名)

韓国

中国

インド

ベトナム

タイ

インドネシア

アジア
6社
(従業員1,697名)



日本
15社
(従業員2,759名)



北米
5社
(従業員339名)

北米



南米
1社
(従業員50名)

ブラジル



※社数・人数は連結会社の数値です。

海外合併パートナー



安徽環新集团股份有限公司(中国)



柳成企業株式会社(韓国)

TENNECO Tenneco, Inc(米国)



Manoyont Co., Ltd(タイ)

南京航海航標裝備總廠有限公司(中国)



中国でNEV(新エネルギー車)向け新製品量産開始

中国パートナーとの合併で、2022年3月に設立したNEV向け技術開発センター(TANE)で、中資系企業・欧米企業から、EV向け新製品(バッテリー関連部品、差速機用部品、モーター周辺部品等)の量産・開発受注を複数獲得。



価値創造プロセス

TPRグループは、「動力機構の高度化を原点として、無限の可能性に挑戦し、優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献する」という企業理念のもと、優れた技術力、グローバルに展開するものづくりの力、お客様との幅広いネットワークといった強みを活かし、継続的な成長とサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

企業理念・中長期ビジョン

社会課題

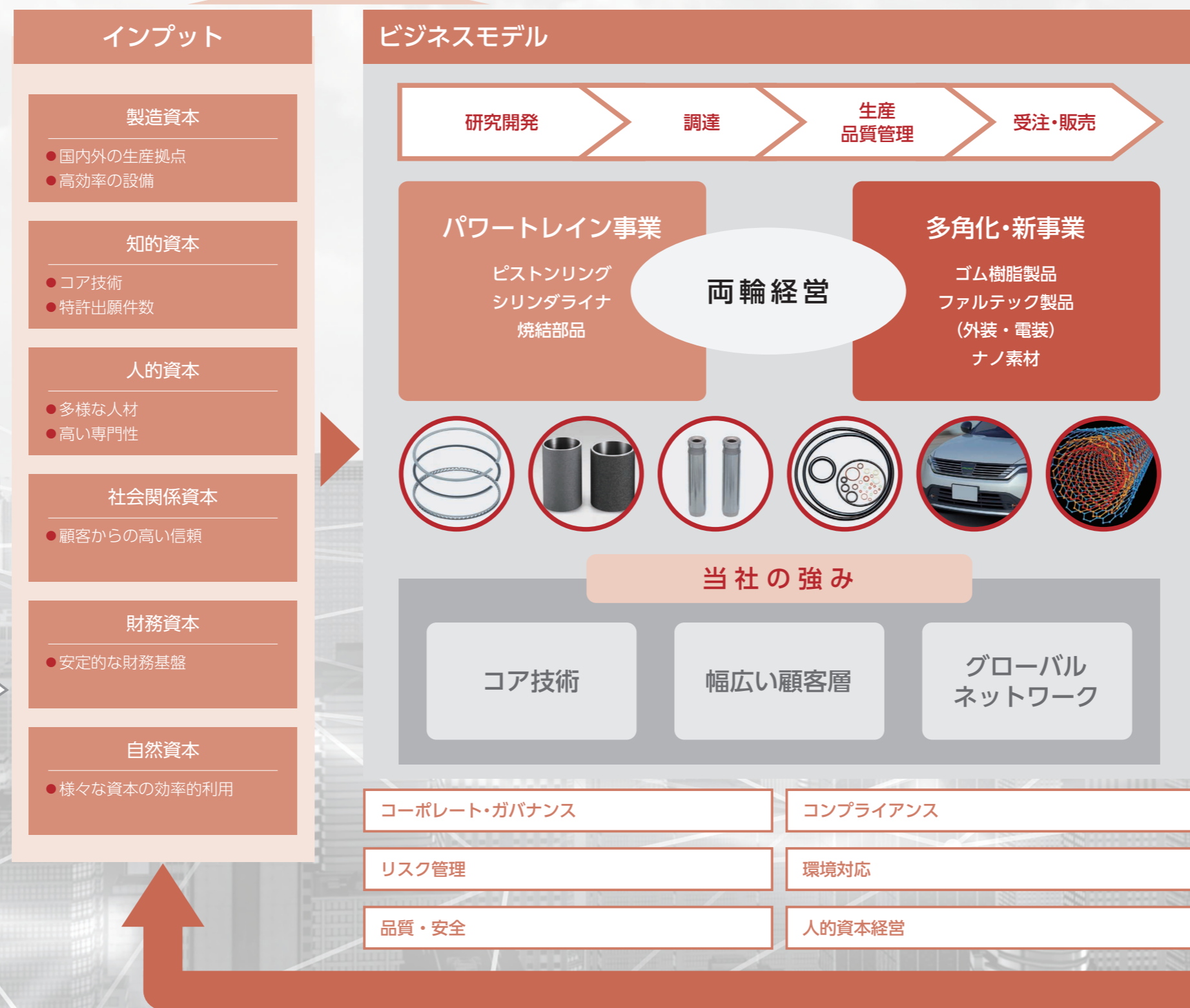
- 環境・気候変動対応
- 安心・安全への意識向上
- ガバナンス・コンプライアンスの厳格化

事業課題

- EV化の進行
- 資源価格高騰
- 地政学リスク

マテリアリティ

P.24 (サステナビリティ)をご参照ください



ステークホルダーや社会への価値提供

環境

- CO₂排出総量低減
- 環境貢献商品の開発

株主・投資家

- 中長期的な株主価値の向上
- 安定的かつ持続的な株主還元

お客様

- クオリティの高い製品・サービスの提供

従業員

- 働きやすい職場風土
- 多様な人材の活躍

サプライヤー

- サステナブルで公正・公平な取引

地域社会

- 地域社会への貢献
- 教育・文化・スポーツ・福祉への貢献

アウトカム/経済的価値

売上高	1,786億円
経常利益	102億円
ROE	2.9%
配当性向	34%(3年平均)

事業戦略

Powertrain Business

パワートレイン事業

自動車をはじめとした輸送機械、産業機械、発電用機械で使われるエンジンやトランスミッションを支える部品を提供しています。



ピストンリング シリンダライナ バルブシート バルブガイド シールリング カーボンスクレーパリング

事業内容

TPRのパワートレイン事業の主力製品は、ピストンリング、シリンダライナ、バルブシート、バルブガイドなどエンジンの根幹を支える重要な部品のほかに、各種シール部品など、幅広く輸送機械、産業機械、発電用機械などで使われる部品も提供しています。

高い評価・計測・解析力、長年培った様々な技術力を武器に、お客様の開発段階から設計提案を行い、環境改善につながるエンジンの高性能化、低燃費化に貢献しています。

強み

- 1 環境性能面の商品優位性(オンリーワン商品、高シェア)
- 2 長年培った開発・評価技術力(シミュレーション技術等)
- 3 開発段階から設計に携わり、幅広い顧客層からの信頼
- 4 高機能、高品質な商品の提供
- 5 世界6極にわたるグローバル供給、アライアンス協力体制

脅威と機会

- 1 EV化進行による従来内燃機関部品市場の縮小
 - 2 世界自動車生産・販売台数の減少
 - 3 環境対応・燃料規制等のさらなる厳格化
 - 4 既存事業競争環境の激化
- 1 内燃機関のカーボンニュートラル・次世代の燃料多様化への対応
 - 2 補修用部品市場シェアの拡大
 - 3 摩耗対策技術やシール機能技術の転用

戦略

TPRは、「23中期経営計画」において、4本柱中の「1の柱」として「パワトレ商品のダントツNO.1を追求」を目指す姿に掲げ、以下の重点取り組みを行っています。

- 市場をリードするダントツ技術の確立
- 最高品質の追求
- 革新的な生産合理化
- 最適生産・調達・物流の実現
- 拡販活動の積極展開
- 技能・技術移転の推進

製品概要

ピストンリング



- ガソリンエンジンの軽量化・低燃費化、ディーゼルエンジンの排気ガス規制対応・高出力化等が求められており、TPRは新しい表面処理技術、リングの形状変更等のアイデアでフリクション、オイル消費、摩耗損失を抑え、エンジン熱効率のさらなる向上に貢献しています。
- 近年、水素、合成燃料(e-fuel)など多燃料対応エンジンの最適化を実現するために、お客様との共同開発を積極的に行っています。

シリンダライナ



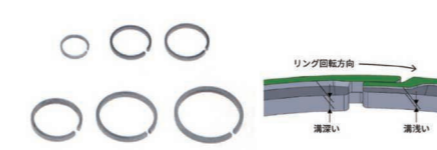
- TPRのアズロック®ライナ(特許技術)は、アルミエンジンブロック用の鋳込みライナにおいて、世界で初めて開発・低コスト工法の量産に成功し、現在ほぼすべての日系自動車メーカーに採用されており、非日系メーカーへの採用も広がっています。
- 長年成熟させた遠心鋳造法により低コスト・高品質の安定製造が可能となり、自動検査等の省力化に取り組み、さらなるコスト競争力を高めています。

焼結製品



- TPRのバルブシート、バルブガイドは、エンジン吸・排気バルブの台座とステムの支えを担っており、高出力・低燃費の環境に配慮したエンジンに適合すべく、自社開発の特殊合金粉末をベースとした硬質粒子を分散した材料を使用し、多くのお客様に採用いただいています。
- 高温下の耐摩耗性に優れるため、近年、水素、LPG、CNGの代替燃料を使用した熱環境に厳しいエンジンでの製品開発が進んでいます。

シールリング



- シール性・耐熱性に優れた焼結製、スチール製のシールリング製品が、排気系のターボチャージャー、EGR弁シール、ハウジングシールなどに採用されています。
- 自動車用トランスミッション(AT/CVT/DCT)用として、TPR発明のT型断面スパイラル溝形状の樹脂製シールリングは、オリジナル材料と特殊形状を使用することで高いシール性と耐摩耗性を両立、またフリクション低減も可能となります。

開発・評価技術



- TPRは、長野工場と岐阜工場にエンジン評価設備が保有されており、各種評価装置と長年培った評価技術力を通じて、内燃機関のさらなる熱効率向上・排ガス低減を実現するための新たな表面処理技術、材料開発と機能開発の提案を行っています。
- 製品設計のサポートをするためにCAE機能解析が重要となる中で、構造解析、熱解析、挙動解析や流体解析などをもとに、最適な設計提案を行い、MBDに対応した活動も積極的に行っています。

TOPICS トピックス

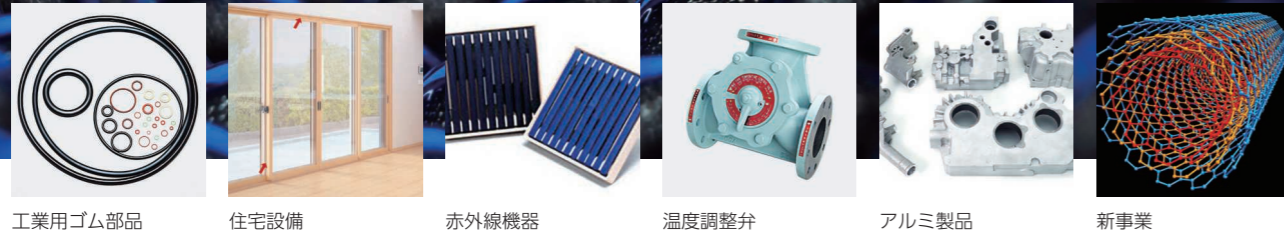
- アズロック®ライナの外周面に溶射処理を実施することにより、さらにアルミエンジンブロックとの密着性(接合力)を上げ、熱伝導性の向上に貢献しています。
- EV化の進展を見据え、国内生産拠点の岐阜工場にEV用モーター評価設備を設置し、2023年1月より稼働させました。これまで大手自動車メーカーとともに培ってきた実機評価ノウハウを活かし、国内外で手掛けるEV関連部品の研究開発、新規部品への参入を加速させます。



EV用評価用モーターと
バッテリーエミュレータ

Diversification and new businesses 多角化事業・新事業

グループ各社の技術を駆使し、樹脂、ゴム、アルミ、機器など幅広い分野で、ソリューションを提供しています。



工業用ゴム部品 住宅設備 赤外線機器 温度調整弁 アルミ製品 新事業

事業内容

鉄を中心としたTPRのコア事業のパワートレイン製品に対して、多角化事業では、ゴム・樹脂を中心とした加工製品を取り扱っています。

また、未来洞察から立案したアイデアの新事業開発および先端新素材のアプリケーション化に取り組むなど、コア技術を応用した新分野の開拓ならびに新規事業の創出を加速させています。

強み

多角化事業

材料配合技術や、金型設計・製品加工の技術を中心に、多様な製品を空圧機械・自動車・住宅等のお客様に提供しています。
日本のマザー工場を中心に中国・ベトナムにも生産拠点を展開しており、グローバルな供給を要望されるお客様の声に応えていきます。

新事業

コアとなるCNT(カーボンナノチューブ)やNP(ナノポーラス)などの先端素材技術と、それらのアプリケーション化するQCD(Quality・Cost・Delivery)ノウハウを強みとしています。また、先端技術研究を行う大学や研究機関、コンソーシアムなどでの産学官連携やオープンイノベーションもTPRの強みです。

脅威と機会

原材料の高騰や輸送費・労務費・インフラ費用の市況が高騰し、地政学的なリスクが世界を取り巻く中、多角化事業は積極的な増産・原価改善投資を行うとともに、国内マザー工場の技術の伝承・底上げはもちろん、海外拠点のナショナルスタッフの育成も積極的に実施し、ダイバーシティ&インクルージョンを展開、事業拡大の機会と捉え、世界のお客様に製品を提供します。新事業においても、世の中の変化や関心のシフトを、ベンチャー企業との提携をはじめとした様々な機会と捉え、事業創出を加速させます。

戦略

多角化事業は多種の材料・製品を扱っていますが、環境対応製品への積極的な開発に取り組んでいます。また半面でライフサイクルを鑑みた製品の取捨選択も行い、次なる開発につながる源泉を確保しつつ価値ある製品の提供を継続することで事業の発展を図ります。
新事業は、既存技術をベースとして、既存領域に隣接する新領域への事業展開や、2050年の未来洞察をもとに様々な産学官連携を軸としたオープンイノベーションによる新事業創出に取り組めます。

事業別施策

多角化事業



- TPRがピストンリングで培ってきたシール技術、即ち、摺動特性や耐摩耗性のノウハウを活かし、ゴム・樹脂の製品へそのメカニズムを活かすことによって、より優れた製品の開発に取り組んでいます。
- また、新事業開発に取り組んでいますCNT(カーボンナノチューブ)をはじめとする新素材と、ゴム・樹脂の融合による新たな用途の製品化を目指し、お客様のご要望にお応えできるよう取り組んでいきます。

TOPICS トピックス グローバルで生産最適化を進めています。

- TPRグループのゴム事業を担うTPRサンライトは、将来の拡販・増産に備え、グループ生産最適化の観点から、これまで銅事業を営んできた工場を活用し、2023年4月千葉県佐倉市に新工場を開業することといたしました。
- また、ベトナムにおいても、ゴム・樹脂事業の今後の需要増を見込み、設備拡張や日本との間での生産最適化を進めています。

新事業



- 公募で選ばれたメンバーを中心に、2050年までの未来洞察からバックキャストで新事業アイデアを立案し、新規事業の開発に取り組んでいます。未来洞察は社内のホームページで全社員に公開され、随時アイデアを募集する体制を構築、ボトムアップアプローチによるアイデア創出も図っています。
- これまで研究開発を進めてきたCNT(カーボンナノチューブ)やNP(ナノポーラス)といったナノ素材については量産受注獲得に向けた生産準備活動と研究開発の両輪推進が課題となっており、役割を明確にした組織化、行動指針に則った開発体制により新事業化のスピードアップに取り組んでいます。

TOPICS トピックス 新素材であるCNT(カーボンナノチューブ)およびNP(ナノポーラス)のアプリケーション化に向け、研究機関およびお客様と研究・開発を進めています。その成果・取り組み状況を各種展示会で発表・説明しています。

主な出展展示会

- 「人とくるまのテクノロジー展」[nano tech 2023] [SMART ENERGY WEEK 春] [東京ケアウィーク '23]
▶ ナノ素材を活用した電磁波吸収シートや面状発熱体といったアプリケーションを開発しました。

Faltec ファルテック

独自の技術力、開発力および提案力を活かして、自動車の外装部品、純正用品、自動車関連機器の各事業で優れた製品を提供しています。

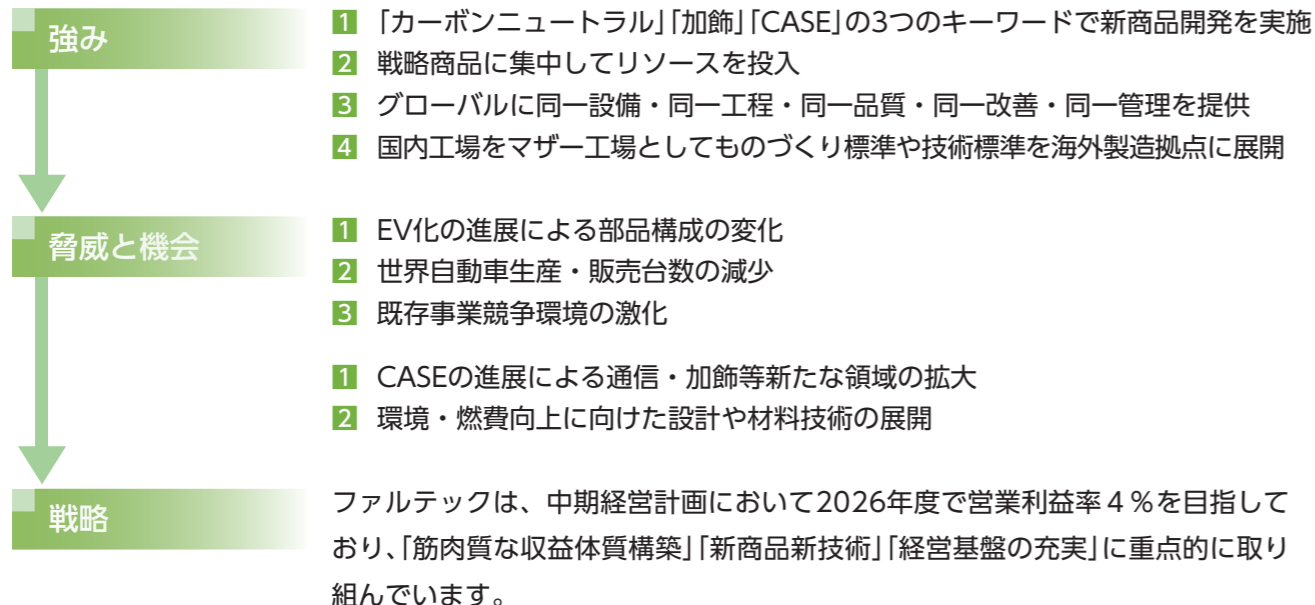


ラジエターグリル ミリ波レーダーカバー ルーフレール イルミ付ラジエターグリル 自動車検査・整備用機械 自動車関連機器

事業内容

ファルテックの主力製品は、自動車メーカーを主な顧客としており、自動車外装部品、自動車純正用品および自動車関連機器を扱っています。

外装部品や純正用品は高い品質感と機能美を追求しています。お客様との共同開発にも取り組んでおり、付加価値の高い商品を提案し、日本のノウハウをもとに、グローバル展開を図っています。



TOPICS トピックス

- ファルテック保有のインターネットと車をつなげる基幹部品であるTCU(Telematics Control Unit)技術とパートナー会社保有のサーバーとの融合により、レンタカーの完全非対面サービスを実現し、コネクティッドビジネスに本格参入しました。

製品概要

樹脂製品 (ラジエターグリル・ルーフレール、その他外装部品)



小物樹脂品から大物樹脂品まで、お客様のニーズにあった成形技術を活用して製品を提供しています。材料投入の際に発生するロスを低減するため、材料切替の自動化やリサイクル活用等を実施しています。樹脂成形技術に表面処理を施すことにより、ラジエターグリルやミリ波レーダーカバーを作り上げ、美しいフォルムを創造します。

金属製品 (ルーフレール、SUSモール、ウインドウモール等)



金属製品の曲げ技術やロールフォーミング技術、押出技術を活用した製品開発を行っています。アルミルーフレールでは5軸CNC加工とストレッチベンダーを活用し、ルーフレールに沿った3次元特殊曲げ形状のルーフレールを生産しています。SUSモールではSUS材を多段階式の金型によりロールフォーミング成型した材料を曲げ、切断・加工等を行い、窓の枠を飾ります。ウインドウモールではロールフォーミングされた金属品に樹脂を被覆した製品をご提供します。同一の断面だけでなく、断面の一部を変えていく技術も保有しています。

電子電装 (イルミ付ラジエターグリル、フォグランプ、リモコンエンジンスターター、TCU)



電子電装技術を活かした魅せる商品により、新意匠を提案しています。車内LANであるCANを使用した制御を得意としており、インターネットと車をつなげる基幹部品であるTCU、リモコンエンジンスターター等を製造しています。また、TCU・ドライブレコーダー・Webアプリを組み合わせたフリートマネジメントシステムを開発し、ファルテック新開発のシステムを利用して車両情報を収集・分析することで、「業務効率化」「コスト削減」「もしもの時の安心」というビジネスの課題 3つを主に解決する法人向けの車両管理システムを提供しています。

自動車関連機器

自動車ディーラーのサービス工場や自動車整備工場に取り扱う自動車メンテナンス等に使用する自動車検査・整備用機器、自動車の製造ラインで扱う自動車製造用設備・機器や非常用動力装置、空調用ガスエンジン等のパワーシステムを提供しています。

TPRのサステナブル経営

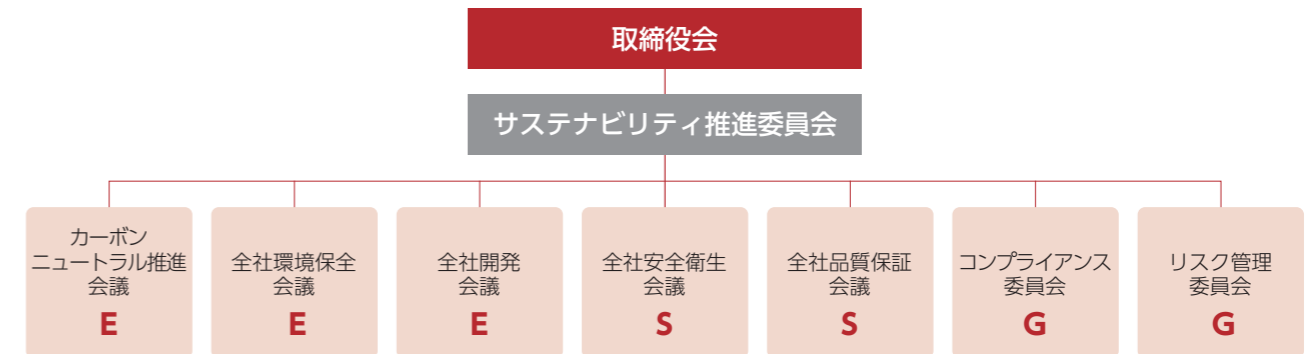
TPRグループは、「優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献する」ことを企業理念とし、社会課題の解決に取り組んでいます。そして、これらの活動を体系的に推進することを狙いに、サステナブル経営の推進体系を策定、マテリアリティを設定し、全社で取り組むことにより、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、企業としての持続的な成長を目指します。

サステナブル経営の推進体系



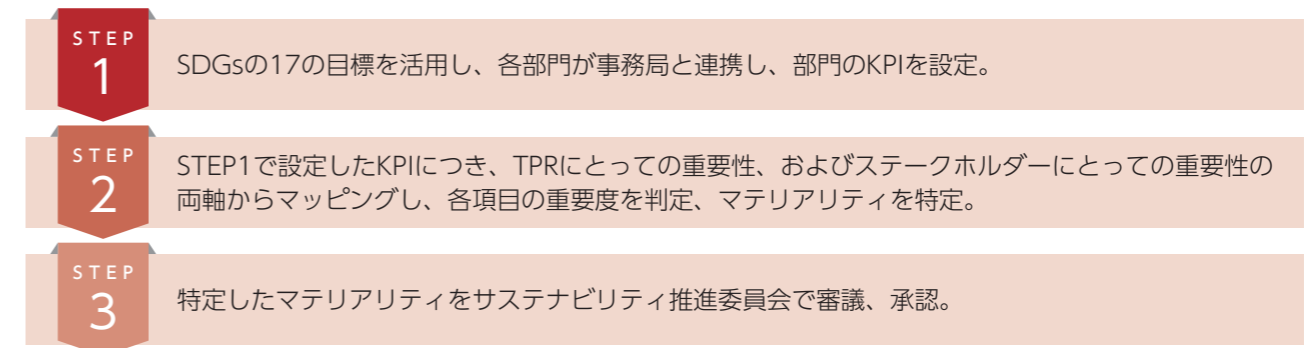
取り組みの推進体制

環境・品質・安全といった各種会議体を通じて、様々なサステナビリティに関する課題に取り組んできている中、その活動をより体系的に推進することを目的として「サステナビリティ推進委員会」を設置し、重要課題や各種方針の設定、活動の方向付け、活動状況のフォローおよび取締役会への報告などを行っています。



マテリアリティ

持続可能な社会の実現と、企業としての持続的な成長、企業価値向上の実現に向けて対処すべき重要課題(マテリアリティ)を以下のプロセスで設定し、全社でしっかりと取り組んでいます。



マテリアリティ	主なKPI	
E	クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献する製品・サービスの提供	環境対応商品開発
	地球環境に配慮したものづくりの推進	CO ₂ 排出総量 重大環境事故件数
S	ひとをつくり、ひとに学び、多様性のある豊かな職場の実現と地域コミュニティへの貢献	女性・外国人社員比率
	お客様の期待と信頼に応えるクオリティの高い製品・サービスの提供	重要品質問題発生件数
G	公正、透明性の高いガバナンス体制の強化	コンプライアンス活動の取締役会報告
	グローバルに、強靱かつ安定的に事業継続するリスクマネジメント	BCP訓練実施回数

サステナビリティ

環境への取り組み

TPRグループは、創業以来、CSRおよびESGに取り組み、企業理念である「優れた技術と価値ある商品の世界への提供を通じて、クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現に貢献する」ことを目指してきました。これに基づき、TPRでは環境活動の枠組みを示す「環境方針」を設定し、全社で環境課題に積極的かつ継続的に取り組んでいます。

環境方針

1. 環境にやさしい商品の提供

環境影響の少ない動力機構の実現に貢献する機構部品の設計・開発と商品の世界への提供を通じて環境負荷の低減に取り組めます。

2. 脱炭素社会の実現に向けたCO₂削減と環境にやさしい事業活動の実現

すべての事業活動において、

- 2013年度比2030年度50%削減を中期目標に2045年カーボンニュートラル達成を目指します。
- 法規制等の遵守、省エネルギー、省資源、廃棄物の減量化・資源化、循環的利用、有害物質の管理、グリーン調達に取り組めます。

3. 社会の一員として

社会の信頼と共感を得るために、コミュニケーション活動と生物多様性への取り組みを積極的に行います。

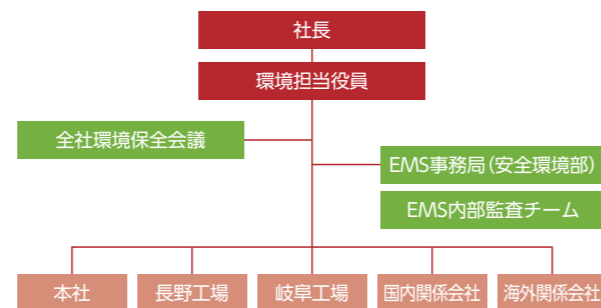
4. よりよい環境活動の実現

全社員および関連会社の教育・啓発活動を行い、環境活動と遵法の重要性の自覚高揚に取り組めます。

管理体制

TPRの環境マネジメントは社長兼COO統轄のもとに全社環境保全会議を中心に推進しています。全社環境保全会議ではTPR役員および関連会社役員、各事業部長の参加により環境関連の直面する問題から中長期的課題まで、検討・改善に取り組んでいます。

また、各事業所、国内関係会社、海外関係会社においては環境担当者を選任し、TPRグループ内のコミュニケーションを図っています。



環境目標・実績

取り組み内容	2022年度目標	評価
CO ₂ 排出量削減 2013年度比 2030年度 50% 削減	TPRグループ・国内拠点 2013年度比 20% 削減	●
消却処分・埋立処分廃棄物の削減 2013年度比 2030年度 30% 削減	TPRグループ・国内拠点 2013年度比 15.9% 削減	▲
水資源の有効活用 2013年度比 2030年度 30% 削減	TPRグループ・国内拠点 2013年度比 15.9% 削減	▲
法規制を遵守し事故・汚染を予防	法規制不適合 ゼロ	●
環境コミュニケーション活動	環境保全活動参加	●

気候変動対応

TPRは、「地球環境に配慮したものづくりの推進」をマテリアリティの一つとして掲げ、気候変動対応に取り組んでおり、TCFD提言に賛同を表明、TCFDコンソーシアムにも参画しています。

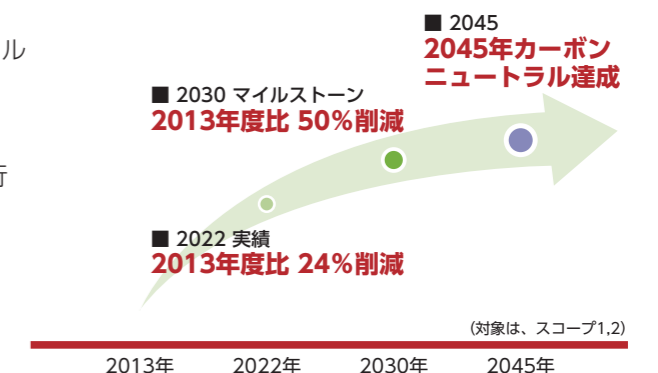
気候変動に伴うリスクや機会は、事業戦略に大きな影響を及ぼすものと認識し、TCFDの提言に基づき、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」の4項目について以下の通り取り組み、情報開示を推進していきます。

項目	活動内容
ガバナンス	TPRは、サステナビリティに関する様々な課題に取り組んできている中、その活動をより体系的に推進することを目的として「サステナビリティ推進委員会」を設置し、重要課題や各種方針の設定、活動の方向付け、活動状況のフォローおよび取締役会への報告等を行い、サステナビリティへの取り組みを強化しています。 また、気候変動への対応等を重要な経営課題の一つと位置付けており、サステナビリティ推進委員会からの各種方針等を、カーボンニュートラル推進会議やESG各種会議体を通じて、環境関連をはじめ直面する問題から中長期的課題まで、検討・改善に取り組んでいます。
戦略	TPRは、従来より気候変動対策・CO ₂ 削減に取り組んできましたが、2045年にカーボンニュートラル達成という目標を設定し、全社で取り組んでいます。その実現のため、国連気候変動に関する政府間パネルIPCCが公表した「4℃シナリオ」「2℃シナリオ」などを考慮し、事業活動に与える気候変動のリスク(移行リスクと物理リスク)と機会を抽出し、対処しています。
リスク管理	TPRでは、「リスク管理委員会」を通じて当社の業務遂行に係るリスクを的確に評価・認識し、当社およびグループ各社におけるリスク管理について審議するとともに、重要なリスク案件についてモニタリングしています。 気候変動については、TPRの環境方針は経営会議で決議され、環境問題全般を管理する全社環境保全会議で課題認識、対応状況の進捗をフォローし、環境方針の周知を行っています。気候関連のリスクならびに機会の特定・対処については、TCFDから提言されたフレームワークに従い、シナリオ分析を踏まえて行っています。 取締役会は、ESGリスクやサステナビリティに関する取り組みについて、その重要事項に関する報告を受け、議論することを通じて、監督しています。
指標と目標	TPRは、気候変動の緩和のための長期的な指標として、Scope1-2における2013年対比でのCO ₂ 排出量を2030年までに50%削減、2045年にカーボンニュートラル達成を目標としています。 この目標に対し、環境に配慮した生産工程や設備の更新、ならびに再生可能エネルギー利用など、社内横断的にCO ₂ 低減活動を進めていきます。

CO₂総排出量削減

TPRは、下記の施策を施行し「2045年カーボンニュートラル達成」に取り組んでいます。

- ▶ CO₂削減マスタープラン策定
→ 省エネ・原価低減活動を行いつつCO₂削減を徹底遂行
- ▶ 太陽光発電への取り組み
- ▶ 溶鉱炉での溶解電力消費削減
- ▶ 開発工程削減によるCO₂削減(MBD活用)
- ▶ 再生可能エネルギー購入



サステナビリティ

社会への取り組み

品質管理

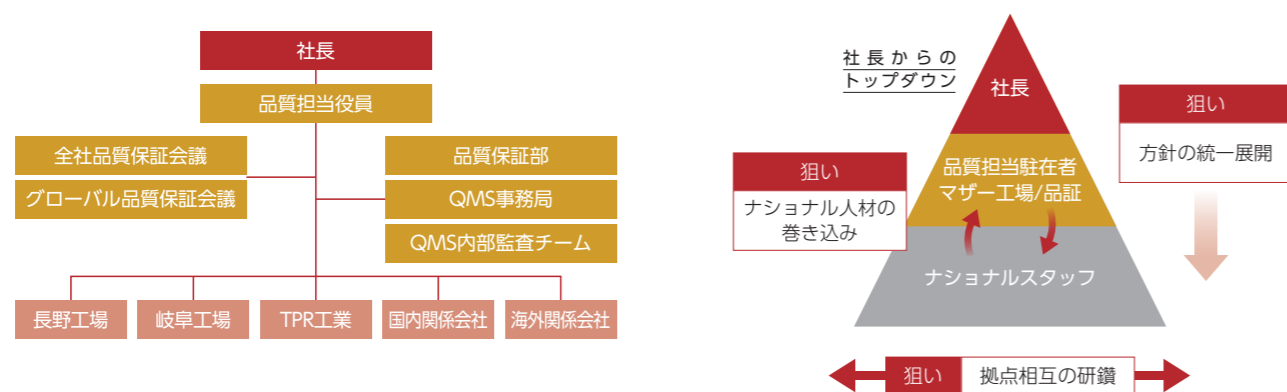
TPRグループは、企業理念のもと、最高品質を追求し、世界一よいものを、世界一多く、早く、安くつくることにより、TPRグループの信頼とお客様満足度を継続的に向上します。そのために、以下の行動指針「品質ウェイ」に基づき、業務を遂行しています。

品質ウェイ(行動指針)

- 1 現地現物(科学的アプローチ)
 - 品質スキルを高め、科学的アプローチをする
- 2 継続的改善(ハード&ソフト)
 - ハード&ソフト改善を継続して、製品品質・業務品質をスパイラルアップしていく
- 3 自工程完結(後工程はお客様)
 - 自工程で問題を解決し、良品のみを後工程に流す
- 4 全員参加(自立性)
 - 問題や課題は、すべて自分事と捉え取り組んでいく

品質活動推進体制

TPRの品質マネジメントは社長兼COO統轄のもとに全社品質保証会議・グローバル品質保証会議を中心に推進しています。全社品質保証会議ではTPR役員、各拠点長および品質管理部門が参加して、各拠点ごとに活動に対する取り組み結果と重点施策を報告して、改善に取り組んでいます。グローバル品質保証会議では、海外拠点の品質基盤強化のために開催しており、TPRの拠点は世界共通を目的に取り組んでいます。この2つの会議を軸にTPRグループの信頼とお客様満足度の継続的な向上を図っています。



調達マネジメント

TPRは高品質なもののづくりと持続可能な社会の実現を目指し、サプライヤーの皆様と協力して、「相互信頼に基づく相互発展」「法令遵守」「環境に配慮した調達(グリーン調達)」等に留意し、調達活動に取り組んでいます。

環境に配慮した調達(グリーン調達)：TPRは、環境に配慮した高品質の製品をお客様にお届けするために、環境負荷の少ない材料および部品の調達(=グリーン調達)に、サプライヤーの皆様と協働して取り組んでいます。そのために、サプライヤーの皆様には、環境負荷物質の非含有の調査をお願いするとともに、下記事項への配慮を通じた環境保全に積極的に取り組まれることもお願いしています。



人的資本の強化

TPRグループは、人権尊重、多様な人材の確保、ならびにモチベーションを高く持ち大きな課題にいきいきとチャレンジするひとの育成が重要と捉え、マテリアリティに掲げている「ひとをつくり、ひとに学び、多様性のある豊かな職場の実現と地域コミュニティへの貢献」を方針として人的資本経営に取り組んでいます。CASEおよびEV化の進展という新たなステージを迎え、全社一丸となって持続的成長の実現に注力していく中で、「人」への投資を積極的に行い、重点施策として「人材の育成」「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」「働きやすい環境づくり」を推進しています。

人材の育成

新たなステージへの挑戦にはすべての従業員の相互理解と共感、高いパフォーマンスの発揮が重要と考え、全役員と従業員での「タウンホールミーティング」や経営トップとの「座談会」を開催し、対話を通じた新たなチャレンジへのモチベーションを醸成するとともに、一人一人のパフォーマンスを最大限に引き出すために、中堅社員を中心としたリーダーシップ研修をはじめ、幹部社員への組織マネジメント研修、全社員へのコンプライアンス研修や安全・環境に関する教育などを計画的に実施していきます。さらに社員一人一人の能力やスキル、専門性を向上させることを目的とした教育へ継続的に投資を行っていきます。また、チャレンジする人への後押しと、社内人材の発掘を目的とした、社内公募による配属などに取り組んでいます。

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

TPRは1990年に最初の海外拠点を設立して以来、積極的な外国人の採用や管理職への登用、「グローバルQCサークル発表大会」などをはじめとするグローバルでの教育や人材交流、協業を進めてきました。これらの取り組みについて、今後さらに積極的に進めていきます。また、女性がよりいきいきと働ける職場を目指し、出産・育児など様々なライフステージを経ながらも長期的なキャリア形成に向かえるよう社内環境の整備を進めるとともに、女性管理職の比率の向上を目指しています。

働きやすい職場づくり

働きやすい職場を目指し、労働組合との対話を重ね、「有給休暇の取得率向上」や「ジョブリターン制度」、男性の「育児休業取得率向上」などワークライフバランスの充実に寄与する取り組みを進めるとともに、ものづくり企業として工場で働く従業員の快適な作業環境確保のための職場環境改善にも積極的に取り組んでいます。

従業員エンゲージメント

TPRグループは、人的投資の取り組みを包括的に捉えるために、2020年度より「エンゲージメントサーベイ」を定期的に行い、そのスコアを指標としています。課題分析、施策実行、サーベイ、次の施策へと改善のサイクルを回し、「働きやすい環境づくり」の実現に向けた重点領域の特定とアクションにつなげています。

地域社会との関わり

TPRは、様々な分野および地域で社会の課題に取り組み、社会全体の持続的な発展に貢献します。

環境保護

地域の清掃活動や生物多様性に取り組んでおり、また地域・行政と環境に関する情報交換会を開催しています。

社会福祉

認定NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむへの寄付を通じて、ひとり親世帯への支援を行っています。

サステナビリティ

コーポレート・ガバナンス

TPRグループは1939年の創業より培ってきた材料・加工・表面処理技術等のものづくりを原点とし、当社の経営理念に掲げる「クリーンで、クオリティの高い地球社会の実現」に向けて事業を展開しています。その実現のために、株主やお客様をはじめ、取引先、地域社会、従業員等のステークホルダーと良好な関係を築くとともに、優れた技術と価値ある商品の提供を通じて持続的成長を図ることが重要と考えており、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

以下の基本方針により、コーポレート・ガバナンスの実効性向上に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

TPRIは取締役会と監査役会を設置しています。取締役の監督機能と業務執行を分離するために、会長兼CEOと社長兼COOをはじめとする執行役員制度を導入しています。監査役会は、内部監査部門と連携を取り、また会計監査人と定期的な意見交換を実施して、適切、適正な監査を行うことでコーポレート・ガバナンスの充実を推進しています。

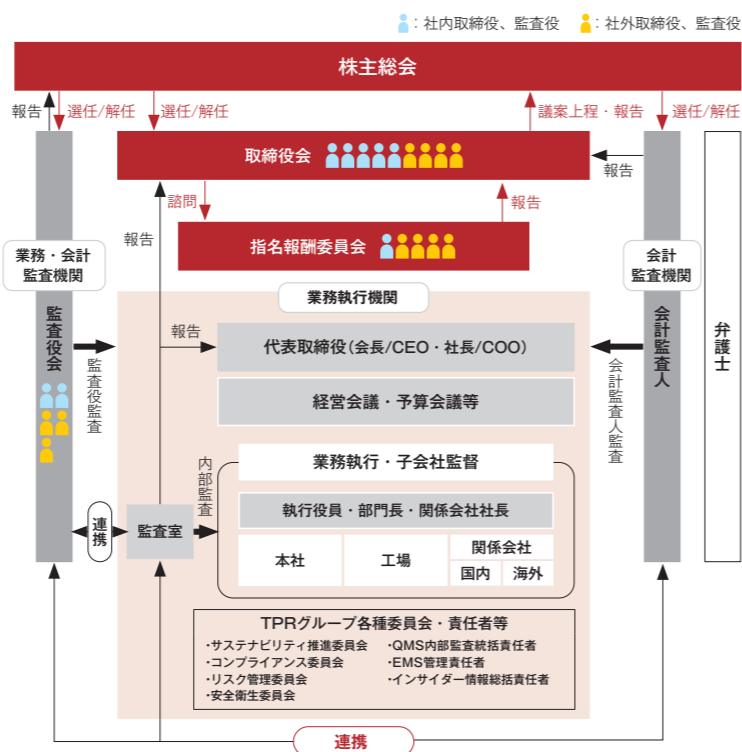
取締役会

取締役9名で構成され、内部統制強化、コンプライアンス遵守の実現をはじめTPRのコーポレート・ガバナンスの充実のため、独立社外取締役を4名(金融業界出身者、製造業界出身者、弁護士)選任しています。取締役会は、原則として毎月開催するほか、必要に応じて随時開催し、経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、業務執行の監督を行っています。

監査役会

監査役は5名で、うち3名は専門的知見を持ち独立性の高い社外監査役とし、中立的、客観的な監査体制を確保しています。監査役は、監査役会の定める監査方針および分担に従い監査を実施しています。

■ コーポレート・ガバナンス体制図



取締役・監査役のスキルマトリックス

取締役会の構成については、年齢や性別を問わず、様々な分野における専門性や知識、経験などの多様性の充実を目指しており、取締役・監査役のスキルについては、TPRの持続的成長と中長期的な企業価値向上に資する観点から必要と判断したスキルを特定しています。

氏名	地位	特に専門性を発揮できる分野							指名報酬委員会
		企業経営	財務・ファイナンス	製造・技術・IT	営業	グローバル	法務・リスク管理		
末廣博	代表取締役会長兼 CEO	●	●						●
矢野和美	代表取締役社長兼 COO	●		●	●				
唐澤武彦	取締役専務執行役員	●	●			●			
伊井明彦	取締役専務執行役員			●	●	●			
鮎澤紀昭	取締役執行役員			●	●	●			
本家正隆	取締役<社外>	●	●				●		●
加藤敏久	取締役<社外>			●		●	●		●
大澤加奈子	取締役<社外>		●			●	●		●
宗藤謙治	取締役<社外>	●		●	●	●			●
加藤浩	常勤監査役		●			●	●		
助川豊	常勤監査役<社外>		●	●			●		●
北原正裕	常勤監査役				●	●	●		
米川孝	監査役<社外>		●		●		●		
田中信哉	監査役<社外>	●	●				●		●

コンプライアンス

TPRグループは、「TPRグループコンプライアンス基本規程」および「TPRコンプライアンス規程」を定めており、この定めに基づき、グループ全体のコンプライアンス体制の維持・向上を推進しています。各社員は、以下の「TPRグループコンプライアンス基本姿勢」に則り、日々の企業活動を遂行しています。

TPRグループコンプライアンス基本姿勢

- 1 誠実な行動
- 2 経営の健全性と透明性の確保
- 3 公正・自由な競争に基づく取引
- 4 安全・快適な職場づくり
- 5 社会への貢献

コンプライアンス体制

上記の規程のもと、会長兼CEOを統括責任者として、経営会議メンバーで構成する「コンプライアンス委員会」を設置しています。その上で、各部室長を推進責任者としてコンプライアンス体制の維持・向上を推進しています。運営事務局として、グループ・ガバナンス統轄室を設置し、国内外のグループ各社を対象に会計処理に関わる不正など業務全般にわたる不正行為を未然に防ぎ、不正行為を早期に察知できる仕組みを構築してグループ・ガバナンスの強化を図っています。また、社員教育体系の中に必須科目として、コンプライアンスの重要性を教育する内容を組み込んでいます。

リスクマネジメント

リスク管理体制

TPRIは、多様・複雑化するリスクを的確に把握し、リスクの未然防止や発生時の被害最小化など、リスク管理に日常的に取り組んでいます。また「リスク管理委員会」を通じて当社の業務遂行に係るリスクを的確に評価・認識・対策を行い、当社およびグループ各社において、審議するとともに、重要なリスク案件については継続的にモニタリングしています。

リスク管理の運営

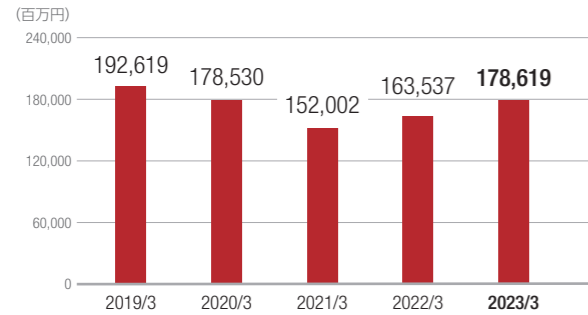
TPRグループリスク管理基本規程により、経営企画室がリスク管理活動を総括し、リスク項目ごとに各部室、各拠点でリスク管理を実行しています。重大なリスクについては、必要に応じて対策本部を設置して対応しています。また、リスク管理活動における重要事項を定期的に取締役会に報告しています。

リスク管理の重点活動内容

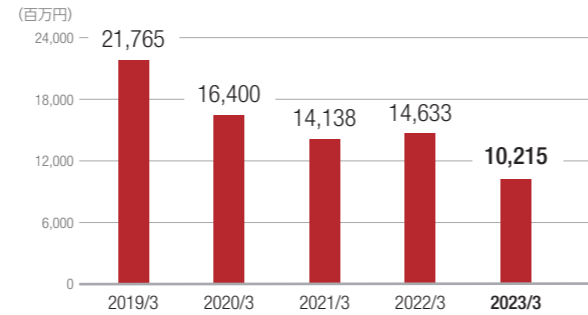
地震、豪雨などの災害等を想定し、人命優先、事業継続を維持するために、初動訓練、復旧対応などの事業継続計画(BCP)活動に継続的に取り組んでいます。また、TPRグループは事業活動において、様々な個人情報・機密情報を保有しており、これらの情報の取り扱いと機密保持のため、システム開発室を中心に情報セキュリティ管理対策を講じています。特に、近年多発している企業に対するサイバー攻撃への対策の強化のため、従業員への教育訓練、対応ソフト等の導入、外部の第三者機構からの脆弱性評価などの活動を強化しています。

財務ハイライト

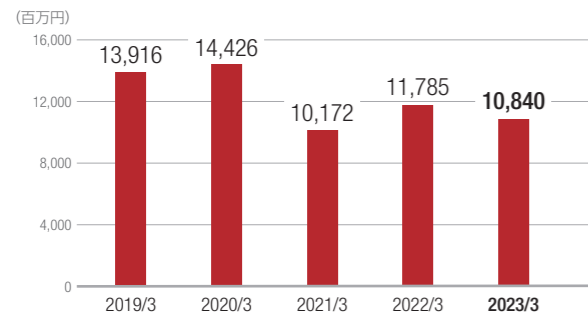
売上高



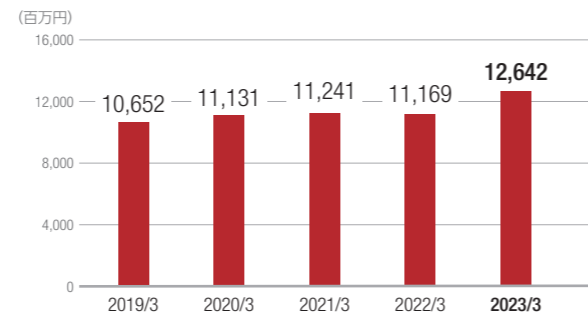
経常利益



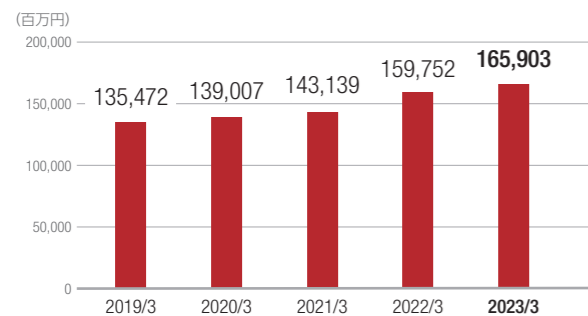
設備投資



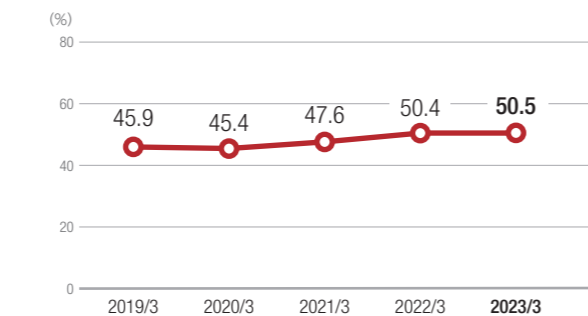
減価償却



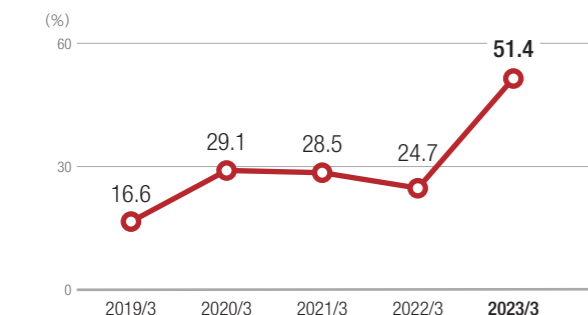
純資産



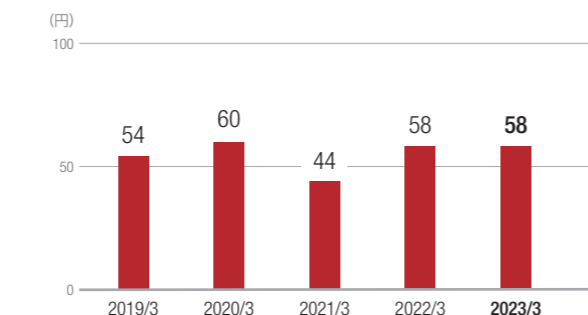
自己資本比率



配当性向



1株当たり配当金



※ 2020年3月期の配当金には普通配当56円および、記念配当4円(創立80周年記念配当)が含まれています。

会社・株式情報

会社概要

会社情報

社名 TPR株式会社 (TPR Co., Ltd.)
 本社 〒100-0005
 東京都千代田区丸の内1-6-2
 新丸の内センタービル10F
 創業 1939年
 資本金 4,758百万円
 (2023年3月31日現在)
 事業内容 エンジン機能部品等の製造、販売
 従業員数 連結6,935名
 (2023年3月31日現在)

役員一覧 (2023年6月29日現在)

代表取締役会長	末廣博
代表取締役社長	矢野和美
取締役専務執行役員	唐澤武彦
取締役専務執行役員	伊井明彦
取締役執行役員	鮎澤紀昭
取締役	本家正隆
取締役	加藤敏久
取締役	大澤加奈子
取締役	宗藤謙治
常勤監査役	加藤浩
常勤監査役	助川豊
常勤監査役	北原正裕
監査役	米川孝
監査役	田中信哉

株式・株主情報

株式情報 (2023年3月31日現在)

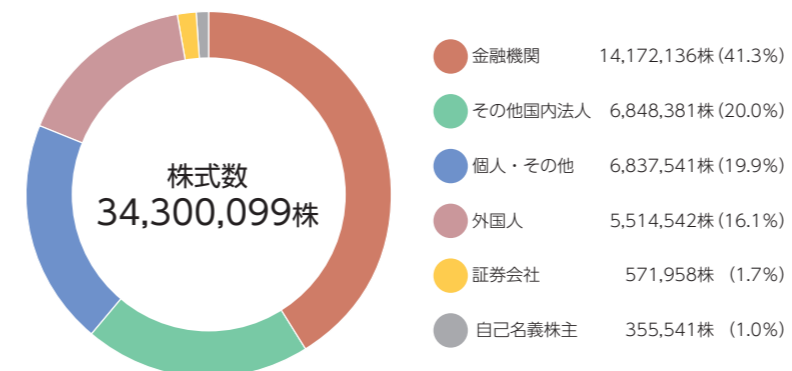
証券コード 6463
 上場市場 東京証券取引所プライム市場
 事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 単元株式数 100株
 発行可能株式総数 135,000,000株
 発行済み株式総数 34,300,099株
 株主数 26,778名
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目
 3番3号
 みずほ信託銀行株式会社

大株主 (2023年3月31日現在)

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 信託口	2,561	7.54
明治安田生命保険相互会社	2,395	7.05
損害保険ジャパン株式会社	2,293	6.75
株式会社日本カストディ銀行 信託口	1,786	5.26
株式会社みずほ銀行	1,518	4.47
ヒューリック株式会社	1,231	3.62
東京建物株式会社	933	2.75
TPR取引先持株会	842	2.48
みずほ信託銀行株式会社	766	2.25
株式会社日本カストディ銀行 三井住友信託銀行 再信託分・日野自動車株式会社退職給付信託口	744	2.19

(注) 持株比率は自己株式(355,541株)を控除して計算しています。

株式分布状況 (2023年3月31日現在)



TPR

TPR株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル10F

TEL.03-5293-2811

<https://www.tpr.co.jp/>

UD FONT
by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

